

北海道の日本遺産

北海道の「心臓」と呼ばれたまち、小樽
～「民の力」で創られ
蘇った北の商都～

カムイとともに生きる上川アイン
～大雪山のふもとに伝承
されるネ申々の世界～

江戸の五月は
シブにもない
～ニシンの
繁栄が
息づく町～



「鮭の聖地」の
物語
～根室海峡
～万年の道程～

本邦国策を北海道に
～北の産業革命
「炭鉄港」～

北の産業革命 炭鉄港

炭鉄港とは、空知の「石炭」、小樽の「港」、室蘭の「鉄鋼」、そして北海道の近代化と産業革命の物語です。

はじめに

私の住む街は、空知で、過去に炭鉄が栄えた地域です。空知は、炭鉄の歴史が深く、今でもその文化が息づいています。この本は、炭鉄の歴史を、空知の文化と結びつけて、ご紹介したいと思います。



2026
8/11
伊田 陽咲



空知は明治から昭和にかけて、日本の近代化を支えた、国内最大の産炭地でした。その後、主要エネルギーが石油から石炭へと移行し、炭鉄は閉鎖。産炭地としての歴史に幕が下りました。

小樽はニシン漁でにぎわった。明治時代に北海道の開拓に必要不可欠な港になりました。小樽は、空知の石炭を積み出す港として発展しました。

近代土木の父 廣井 勇
日本人技師として初めて「本格的な洋防波堤」を建設し、小樽港の陣頭指揮をとった。



てつのまち 室蘭 炭鉄のくらし

鉄鋼業が栄えた3つの理由
1 鉄道で空知から石炭を大量かつ安価に入手できた

炭鉄マンとその家族が暮らし、最盛期は、札幌より人口が4倍、た。電気がなかった。炭鉄の会社があり、映画館や劇場をつくり、新作の映画など、札幌より先に上映されていました。

小樽に銀行が多いのはなぜ？
ニシン漁や石炭の積出港として巨額の富が集まり、大手銀行がこぞって開設しました。銀行建築は現在の街並みに色濃く残っています。

2 室蘭港は天然の良港だったため、海外から鉄鉱石をスムーズに輸入できた

3 国が兵器の国産化をすすめるために、製鉄所をつくった。



「ものづくりのまち」 室蘭

室蘭は「ものづくりのまち」で、ボルトやナット、鉄のくらしが感じられます。



編集後記 ～私の学び～

思いました。北海道の歴史を、空知の文化と結びつけて、ご紹介したいと思います。

私のまちの炭鉄港 室蘭鉄道跡地公園

空知で採掘された石炭を、室蘭まで運ぶために造られた、公園です。小学校から自転車で2～3分の距離にある、家族や友達と遊ぶのに最適な公園です。水遊びや、鉄のくらしを感じることができます。



炭鉄港めし

小樽は、炭鉄の歴史が深く、今でもその文化が息づいています。この本は、炭鉄の歴史を、空知の文化と結びつけて、ご紹介したいと思います。

